



中間貯蔵施設事業において
発生した事例と対応等の詳細
(2019年8月環境安全委員会報告以降)

2020年3月

環境省

交通事故（輸送車両の人身事故①）

事例の概要

- (1) 輸送車両(空荷)の一般車両(乗用車)との衝突 2019年11月20日 5時30分頃 <日新土建>
- 郡山市からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かう途中、福島市内の県道362号線から国道4号への右折時に、前方から直進してきた一般車両(乗用車)に衝突した。(相手車両の左前方と、輸送車両の左側バンパーが接触した。)
 - 相手車両の運転者は頸部打撲傷と診断。

発生要因

- (1) 直進車優先であるところ、直進車より先に右折した。

再発防止策

- (1) 交差点では対向直進車を優先し、その通過後、左右確認および巻き込み確認をして走行することを周知徹底する。

交通事故（輸送車両の人身事故②）

事例の概要

(2) 輸送車両(空荷)の一般車両(バイク)との衝突

2020年1月21日 9時30分頃 <大林JV>

- 二本松市からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かうため、同市内の広域農道から県道62号線に入る丁字路を右折する際、県道62号線を右側から直進してきた一般車両(バイク)と衝突した。(輸送車両の右側後輪とバイクが接触した。)
- バイクの運転者は右肋骨及び右足膝半月板の骨折と診断。

発生要因

- (2) 右側の確認不足。右折前に、バイクの前を走行していた別の車両(バン)のみを確認し、その後には車両はいないと思い込んだ。



事故発生現場の状況(右手前:広域農道、奥:県道62号線)

再発防止策

- (2) 二段階停止して確認する(一時停止線で確実に停止した後、少し前に出て左右が確認できる位置で再度停止して確認すること、右・左・右の複数回確認を安全呼称しながら行うことを周知徹底する。)
- 運行管理者がドライブレコーダー映像の抜き打ち確認を行い、運転状況の確認と指導を行う。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故①）

事例の概要

- (1) 輸送車両(空荷)の一般車両(乗用車)との接触 2019年8月2日 10時37分頃 <清水JV>
・福島市からの輸送車両が、積込みまでの待機場所であるクリーンセンター場内で、バックで駐車しようとして後退した際、ダンプ助手席側のステップが、駐車していたクリーンセンター職員の車両の運転席側フロントバンパーの右角部に接触した。
- (2) 輸送車両(空荷)の一般車両(乗用車)との接触 2019年8月5日 5時53分頃 <前田JV>
・国見町からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かう途中、伊達市内の国道4号で、追い越し車線から走行車線に車線変更した際、左前方走行車線の一般車両(乗用車)の右側部に接触した。
- (3) 輸送車両(空荷)の他の除去土壌等の輸送車両との接触 2019年8月21日 11時39分頃 <大林JV>
・富岡町からの輸送車両が、輸送終了後に東大和久スクリーニング場に向かう途中、大熊町内の町道東17号線にて、対向してきた他JVの輸送車両とすれ違う際、両車のサイドミラーが接触した。

発生要因

- (1) 周囲の確認不足。誘導員がいなかった。
- (2) 車線変更時の後方・側方の確認不足。確認を十分に行う前に車線変更を行った。
- (3) 道幅の狭い箇所の左カーブで中央側に寄った。

再発防止策

- (1) ダンプトラック後退時には誘導員を配置。待機場所と他の車両の駐車場所の区分を明示。
- (2) 周辺(前後左右)の車両の行動を認識すること、車線変更時は早めに合図を出すとともに後方・側方の安全確認を十分に(安全呼称で)行うことを指導。
- (3) カーブに進入する際や、道幅の狭い箇所で対向車がある場合には減速すること、左側に余裕がある場合には左側に寄って走行すること(キープレフト)を指導。ミラーの視認性をよくするため、蛍光反射テープを貼り付ける。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故②）

事例の概要

- (4) 除去土壌等の輸送車両の他の輸送車両(空荷)との接触 2019年9月2日 9時26分頃 <戸田JV>
・ 浪江町からの輸送車両が、大熊町内の町道東17号線で対向してきた他JVの輸送車両とすれ違う際、両車のサイドミラーが接触した。
- (5) 輸送車両(空荷)の一般車両(軽トラック)との接触 2019年9月2日 15時7分頃 <鹿島JV>
・ 田村市からの輸送車両が駐機場に戻るため、川俣町内の国道114号を走行中、工事のため片側交互通行となっている箇所前方車両に追従して走行していたところ、工事規制用の信号機が赤であることに気付いて停止線を越えて停車した。バックで戻ろうとした際、後続の一般車両(軽トラック)に接触した。
- (6) 輸送車両(空荷)のタンクローリー車との接触 2019年9月3日 10時3分頃 <前田JV>
・ 葛尾村からの輸送車両が、2回転目の輸送のために仮置場に戻る際、大熊町内の国道288号を走行中、タンクローリー車が対向してきたため減速したが、ミラーが接触・破損した。

発生要因

- (4) 双方がキープレフトを怠った。
・ 対向車と接触する可能性があるとは意識していなかった。
・ 運転操作の過信から慎重さを欠いていた。
- (5) 片側交互通行区間に進入する前に、信号・誘導員を確認せずに前方車両に追従した。
・ バック時の後方確認不足。
- (6) 対向車が中央寄りに走行してきたが、減速が遅れ、接触を回避できなかった。

再発防止策

- (4) 事故箇所の周知、車載音声ナビへの追加。キープレフトの励行を指導。
- (5) 片側交互通行区間に進入する際は、前方車両に追従するのではなく信号・誘導員指示に従うよう指導。
・ 後方に車両や人等がないことを確認できなければバックしないよう指導。
- (6) 狭隘箇所では譲り合いの気持ちで最徐行で運転するよう指導。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故③）

事例の概要

- (7) 除去土壌等の輸送車両と他の輸送車両(空荷)との接触 2019年9月5日 11時43分頃 <戸田JV>
・相馬市からの輸送車両が、双葉町内の国道288号を走行中、仮置場へ戻る同JVの輸送車両とすれ違ったところ、ミラー同士が接触した。
- (8) 輸送車両(空荷)同士の追突 2019年9月11日 16時43分頃 <大林JV>
・郡山市からの輸送車両が、輸送を終了し駐機場へ戻るため、前方の他JVの輸送車両に続いて大熊町内の東大和久ゲートから出て国道6号の交差点内を右折しようとした際、前方輸送車両が交差点内で停止した。当該車両は停止できず前方輸送車両に追突した。
- (9) 輸送車両(空荷)の他JV業務車両との追突 2019年9月26日 11時10分頃 <戸田JV>
・富岡町からの輸送車両が、3回転目の輸送のため仮置場へ戻る際、大熊町内の東大和久ゲートを出たところで、左折しようとしていた前方の他JVの業務車両に追突した。

発生要因

- (7) キープレフトの不足。安全に対向通過するために必要な減速や徐行の不足。
- (8) 車間距離及び前方確認の不足。前方車両に連続して右折しようとした。
- (9) 車間距離及び前方確認の不足。

再発防止策

- (7) キープレフト及び狭隘箇所・カーブでの十分な減速等を指導。事故箇所をハザードマップ及び音声ナビに追加。対向時の視認性向上のためサイドミラーに蛍光テープを貼付。
- (8) 車間距離の確保、2台連続右折の禁止を指導。
- (9) 事故箇所をハザードマップ、車載音声ナビに追加。車間距離の確保及び前方確認について指導。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故④）

事例の概要

- (10) 輸送車両(空荷)の一般車両(乗用車)との接触 2019年9月30日 7時10分頃 <清水JV>
・ 西郷村からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かう途中、立ち寄った南相馬市内のコンビニエンスストア駐車を発しようとして前進し始めた際、左後方から来た一般車両(乗用車)の運転席側ドア部と輸送車両の前方左ヘッドランプカバーが接触した。
- (11) 輸送車両(空荷)の大型トレーラーとの接触 2019年10月3日 6時15分頃 <戸田JV>
・ 川内村からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かう途中、富岡町内の県道36号線滝川トンネル付近で大型トレーラーと対向し、双方一時停止して徐行したものの、すれ違った際にエアタンクが接触した。
- (12) 輸送車両(空荷)の一般車両(乗用車)との接触 2019年10月5日 6時00分頃 <大林JV>
・ 川俣町からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かう途中、川俣町内の国道114号の登坂車線に車線変更しようとした際、左側から無理な追越しをしてきた一般車両(乗用車)と接触した。

発生要因

- (10) 車両周囲の安全確認の不足。
(11) 連続カーブで幅員が狭い道路で対向し、無理に通過しようとした。バックして切り返しをしたが、後続の渋滞が生じてきたため、焦って強引に走行した。
(12) 車線変更の際のサイドミラーの確認が不足していた。

再発防止策

- (10) 停車後、再出発時には周囲の確認を確実にを行うよう指導。
(11) ハザードマップに追加し、走行が物理的に無理な場合は決して無理をしないよう指導。
(12) 登坂車線への車線変更を行う際に、必ず左サイドミラーを確認するよう指導。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故⑤）

事例の概要

(13) 輸送車両(空荷)と他の除去土壌等の輸送車両との接触 2019年10月7日 8時25分頃 <大成JV>
・川俣町からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かう途中、南相馬市内の県道12号線でセンターラインをはみ出し、他JVの輸送車両とすれ違いざまミラー同士が接触した。

(14) 輸送車両(空荷)の一般車両(乗用車)との接触 2019年10月7日 17時35分頃 <鹿島JV>
・郡山市からの輸送車両が、輸送を終え駐機場に戻る途中、同市内の内環状線(2車線)の右側を走行していた際に、右折のために停車した前の車両を避けようとして左側車線に進路変更したところ、左車線を走行していた一般車両(乗用車)の右後方に接触した。

(15) 輸送車両(空荷)の一般車両(乗用車)との接触 2019年11月21日 10時9分頃 <鹿島JV>
・郡山市からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かう途中、同市内の交差点で右折のため右折レーンに入ろうとしたところ、左側から前方に入ってきた一般車両(乗用車)の右側面と輸送車両の左前部が接触した。

発生要因

- (13) 前日(休日)からの疲労感があり運転に集中できていなかった。
- (14) 急な車線変更と左方確認不足。
- (15) 交差点が連続し、かつ右折レーンが短い交差点を走行していた。急な車線変更に対する危険予知ができていなかった。

再発防止策

- (13) 体調不良時の運行禁止の徹底。ドライブレコーダーの抜き打ち確認。
- (14) 交差点手前30m以内では車線変更を行わないこと、進路変更時は3秒以上前に合図すること、十分に車間距離をとることを指導。
- (15) 車線変更車両への危険予知及び周囲の安全確認について指導。通勤ルートを変更。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故⑥）

事例の概要

- (16) 輸送車両(空荷)の大型車両との接触 2019年11月21日 12時57分頃 <戸田JV>
・ 浪江町からの輸送車両が、2回転目の輸送のため仮置場へ戻る際、双葉町内の国道288号を走行中、対向してきた大型車両とサイドミラーが接触した。
- (17) 除去土壌等の輸送車両の輸送車両(空荷)との接触 2019年11月25日 13時38分頃 <大林JV>
・ 郡山市からの輸送車両が、受入・分別施設付近の交差点で右折した際、左折待ちをしていた他JVの輸送車両と、右側サイドミラー同士が接触した。
- (18) 輸送車両(空荷)の一般車両(10tダンプトラック)との接触 2019年11月25日 14時45分頃 <日新土建>
・ 郡山市からの輸送車両が輸送を終了し駐機場へ戻るため田村市内の国道288号を走行中、対向してきた一般車両(10tダンプトラック)とすれ違った際、サイドミラー同士が接触した。

発生要因

- (16) 幅員の狭いカーブ付近の大型車両同士の対向で減速が不十分であった。
- (17) 一時停止の不足。前車に続こうとして焦り、右側に寄った。
- (18) 前車との車間距離が短かったために道路の凹みに気付くのが遅れて減速せず、凹みにハンドルをとられてミラーがセンターラインを越えた。

再発防止策

- (16) 幅員の狭い道路でのキープレフト、減速の繰り返し教育。事故箇所を音声ナビに追加。
- (17) 交差点走行時の安全確認、確実なハンドル操作、安全呼称による安全確認の徹底について指導。
- (18) 道路の凹み等の危険箇所を回避できる車間距離や速度をとることを指導。事故箇所をハザードマップに追加。

交通事故（輸送車両の物損（対車両）事故⑦）

事例の概要

- (19) 除去土壌等の輸送車両同士の接触 2019年12月17日 8時35分頃 <鹿島JV>
・ 浪江町からの輸送車両が、大熊町内のふるさと農道から町道東17号線へ右折した際にサイドミラーが中央線を越え、町道東17号線を走行中の他JVの輸送車両のあおり(右側後部)部分に、ミラーが接触した。
- (20) 除去土壌等の輸送車両の一般車両(建柱車)との接触 2019年12月24日 11時25分頃 <大成JV>
・ 桑折町からの輸送車両が、常磐自動車道(下り)常磐双葉IC工事現場付近を走行中、左側サイドミラーが、路側帯で作業中の一般車両(建柱車)のミラーに接触した。
- (21) 輸送車両(空荷)の他の除去土壌等の輸送車両との接触 2020年1月17日 14時15分頃 <大林JV>
・ 須賀川市からの輸送車両が、輸送を終了し駐機場へ戻るため大熊町内の国道288号を走行中、他JVの輸送車両と対向する際にサイドミラー同士が接触した。
- (22) 除去土壌等の輸送車両同士の接触 2020年1月21日 8時13分頃 <前田JV>
・ 飯舘村からの輸送車両が、タンDEM走行で同村内の国道399号を走行中、右折のため停車した先行車両に後続車両が追突した。

発生要因

- (19) 早く右折しようとして、一時停止と安全確認が不十分なまま無理に交差点に進入した。
- (20) 一般車両のミラーが路側帯からはみ出していたが、減速が不十分で対処できなかった。
- (21) 幅員の狭い箇所での減速不足。
- (22) 路面が凍結しており、制動距離が長くなっていたが、車間距離が不足していた。

再発防止策

- (19) アンダーミラーで停止線を確認し3秒停止すること、右左右を指差呼称で確認すること、周囲の安全を確認しながら交差点に進入すること等を指導。
- (20) 工事区間では安全に通過できる速度まで事前に十分に減速するよう指導。常磐自動車道の工事区間をハザードマップに追加。
- (21) 対向車を意識した譲り合い、危険予測運転を指導。
- (22) 通常よりも長めの車間距離をとること等、冬道の安全運転について指導。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故①）

事例の概要

- (1) 除去土壌等の輸送車両の道路付帯設備との接触 2019年9月30日 14時10分頃 <前田JV>
 - ・ 飯舘村からの輸送車両が、同村内の八木沢トンネルを走行中、トンネル内の電光看板（非常電話）に左ミラーを接触させた。
- (2) 輸送車両（空荷）の脱輪 2019年10月9日 13時48分頃 <清水JV>
 - ・ 飯舘村からの輸送車両が、2回転目の輸送のため同村内の県道31号線を仮置場に向けて走行中、後続の一般車両に道を譲ろうとして左側へ寄ったところ、左側前輪が路肩から脱輪した。
- (3) 輸送車両（空荷）のNTT柱との接触 2019年10月23日 11時55分頃 <前田JV>
 - ・ 葛尾村からの輸送車両が、2回転目の輸送のため仮置場へ戻る際、浪江町内の国道114号沿いのNTT柱に左側ミラーを接触した。

発生要因

- (1) 対向大型車に気をとられ、車線左側に寄り過ぎた。車両左側への注意が不足していたため、ランプが消えていた電光看板を見落とした。離合時の減速運転が不十分であった。
- (2) 後続の一般車両に道を譲るため、タンデムの後続車両も停車するスペースを作ろうと前進した結果、左側に寄り過ぎて草地を走行し路盤が下がり脱輪した。
- (3) 対向車との離合時に、車線左側に寄り過ぎた。離合時の減速運転が不十分であった。

再発防止策

- (1・3) 車線左側に寄り過ぎないこと、離合時やトンネル進入前に十分減速することを、ハザードマップを用いて指導。
- (2) 特にタンデムでの走行時に道を譲る際には、スペースのある箇所で行うよう指導。
- (3) 危険箇所について運転手から聞き取りを行いハザードマップに反映。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故②）

事例の概要

- (4) 除去土壌等の輸送車両のガードパイプとの接触 2019年11月6日 9時16分頃 <前田JV>
・ 南相馬市からの輸送車両が、浪江ICを下り、浪江町内の国道114号への接続道路を走行中、左側ガードパイプに接触した。
- (5) 輸送車両（空荷）の街路灯との接触 2019年11月7日 11時26分頃 <清水JV>
・ 飯舘村からの輸送車両が、2回転目の輸送のため仮置場へ戻る際、大熊町内の町道の交差点にある街路灯の支柱に接触した。
- (6) 輸送車両（空荷）の道路標識との接触 2019年11月13日 12時33分頃 <戸田JV>
・ 相馬市からの輸送車両が、2回転目の輸送のため仮置場へ戻る際、常磐自動車道（下り）の南相馬IC出口カーブ箇所を走行中、当該車両の左サイドミラーが投排雪禁止標識に接触した。

発生要因

- (4) ハンドル操作を誤った。
(5) スクリーニング場までのルートに不安があり、確認するために誘導員がいない箇所でバックした。
(6) 注意不足で走行車線からそれた。

再発防止策

- (4) 運転中は周辺の道路施設との距離感を常に認識するよう指導。運転適正診断の活用と再教育の実施。
(5) 誘導員なしのバックはしないルールの徹底。輸送ルートの理解度確認の再実施。ルートに不安がある場合は再度試走させる。
(6) 運転中の集中力維持のため、積込場や荷下ろし場で運転席から降りてストレッチを行うよう指導。音声ナビで高速道路終点に伴う減速と走行車線走行を注意喚起。ドライブレコーダー映像を活用した指導の実施。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故③）

事例の概要

- (7) 輸送車両(空荷)のガードレールとの接触 2019年12月10日 5時55分頃 <戸田JV>
• 川内村からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かうため同村内の県道36号線を走行中、凍結路でスリップし、反対車線側のガードレールに接触した。
- (8) 除去土壌等の輸送車両のNTT支柱との接触 2019年12月12日 8時15分頃 <前田JV>
• 飯舘村からの輸送車両が、同村内の県道12号線を走行中、県道31号線との交差点で、サイドミラーをNTTの支柱に接触させた。
- (9) 除去土壌等の輸送車両のカーブミラーとの接触 2019年12月23日 12時38分頃 <清水JV>
• 飯舘村からの輸送車両が、同村内の県道31号線を走行中、道路左側にあるカーブミラーに助手席側サイドミラーを接触させ、サイドミラーが落下した。

発生要因

- (7) 前方車両が横滑りしたのを見て慌て、ブレーキを踏んだ。
(8) 大型車同士のすれ違いで、左に寄りすぎた。
(9) 対向車が来ることを意識し過ぎて、左に寄り過ぎた。

再発防止策

- (7) 輸送路ハザードマップに凍結スリップ危険を追記し周知。冬道の安全運転の遵守事項を指導。
(8) 当該交差点は危険箇所として大型車同士のすれ違いをしないよう周知。
(9) 対向車がない場合には路肩から安全な距離を取ること、危険箇所では最徐行することを指導。ハザードマップに追加して周知。

交通事故（輸送車両の物損（対物）事故④）

事例の概要

- (10) 輸送車両(空荷)の立木との衝突 2020年1月15日 7時48分頃 <大林JV>
• 川俣町からの輸送車両が、駐機場から仮置場に向かうため浪江町内の国道114号を福島市方面に走行中、凍結道路でスリップし、反対車線の路肩の立木に衝突した。
- (11) 除去土壌等の輸送車両のガードレールとの接触 2020年1月27日 12時18分頃 <鹿島JV>
• 浪江町からの輸送車両が、双葉町内の国道288号を走行中、サイドミラーを速度制限標識に接触させた。
- (12) 除去土壌等の輸送車両の縁石との接触 2020年1月31日 12時9分頃 <前田JV>
• 飯舘村からの輸送車両が、同村内の八木沢トンネル出口付近を走行中、ハンドル操作を誤り、反対車線側の縁石に接触した。

発生要因

- (10) 積雪があったが、緩やかな右カーブであり、時速50キロで問題なく曲がれると過信した。路面が凍結していると考えなかった。
- (11) ゲート通過で発進する際に誘導員を避けるために左側に寄り過ぎた。
• 着用していた手袋が滑りやすく、ハンドルを適切に切ることができなかった。
- (12) 運転席横に置いた書類かごが運転中に落下しそうになったため左手で押さえたところ、体勢が崩れてハンドル操作を誤った。

再発防止策

- (10) 冬道の安全運転の遵守事項を指導。
- (11) ゲート通過で発進する際の指差し呼称を励行。
• ハンドル操作に支障の出ない手袋の支給。
- (12) 運転席及び座席横には不要なものは置かないこと、車内に必要物品を置く場合には、ブレーキや振動で動かないように固定処置をすること、ながら運転・脇見運転の禁止等について指導。

交通事故（業務車両の物損（対車両）事故）

事例の概要

- (1) 遮へい土のう運搬車両の一般車両（ライトバン）との追突 2019年9月4日 10時55分頃 <大成JV>
• 南相馬市の仮置場からの遮へい土のう運搬車両（10tダンプトラック）が、双葉町内の国道6号上り前田川橋付近において、前方で信号待ちをしていた一般車両（ライトバン）に追突した。けが無し。
- (2) 場内運搬車両の輸送車両（空荷）との接触 2020年1月14日 13時30分頃 <前田JV>
• 受入・分別施設からの場内運搬車両が、他JVの中継テントに向かって大熊町内の町道東17号線を走行中、他JVの輸送車両とすれ違う際にミラー同士が接触した。

発生要因

- (1) 前方不注意。
- (2) カーブを走行中にセンターラインをはみ出した。脇見運転による前方不注意。

再発防止策

- (1) ドライブレコーダー映像による運行状況の確認を不定期で行い、運転手に緊張感を持たせるとともに安全チェック及び指導を行う。
- (2) 運転適性検査の実施と指導。ドライブレコーダーの映像による運転状況確認を週1回実施する。
 - 危険箇所の再周知を含めた安全運転教育の実施。

交通事故（業務車両の物損（対物）事故①）

事例の概要

- (1) レッカー車に積載の輸送車両（空荷）の街路灯との接触 2019年9月28日 16時5分頃 <清水JV>
- エンジントラブルで自走不能になった浪江町からの輸送車両を、レッカー車（フルフラット型10tセルフ）に積載し移動を開始した際、双葉町内の町道209号線で輸送車両のミラーと道路脇の街路灯が接触し、街路灯カバーを損傷させた。
- (2) 造成土運搬車両の路肩への逸脱 2019年10月17日 11時0分頃 <大成JV>
- 土取り場から保管場への造成土運搬車両が、荷下ろし後、再び土取り場に向かう途中、双葉町内の町道209号線から逸脱し、路肩に転落した。路肩表示（デリネーター）を損傷させた。運転手は肩を脱臼した。

発生要因

- (1) すれ違いのために左に寄りすぎて街路灯の張出部に接触した。
- 積載地上高が建築限界を下回っていたため、道路構造物に接触することなく走行できると判断した。
- (2) 運転中にヘルメット（内側に汗取り帽を被っていた）がずれ、右手で押さえながら直すことに気をとられた。

再発防止策

- (1) 狭隘箇所の走行時には、安全にすれ違いが可能な場所を選んで行うよう周知。
- 建築限界以下の構造物がある事を認識し、車載地上高が3.8mを超える場合には道路構造物を意識して慎重に運転するよう周知。レッカー車はけん引型を優先し、搭載型を使用する場合は事前に教育を行う。
- (2) ヘルメットは常時着用し、運転中に脱着しないよう指導。

交通事故（業務車両の物損（対物）事故②）

事例の概要

(3) 土砂運搬車両の側溝への脱輪

2019年11月6日 8時40分頃 <鹿島JV>

- 道路工事に使う土砂を運搬する車両(10tダンプトラック)が、大熊町内の県道35号線から入って土取場へ向かう町道で、左前輪を脱輪した。ガードレールと側溝を損傷させた。

(4) ユニック車の側溝への脱輪

2020年1月28日 8時20分頃 <西松JV>

- 灰処理生成物保管施設工事の現場に4tユニック車がバックで進入する際、左前輪を町道452号線の側溝に脱輪させた。自力で脱出したが、側溝の一部を損傷させた。

発生要因

- (3) 見通しの悪い道で合図のためトランシーバーを使用し、充電器に戻す際、よそ見をした。
- (4) 雨天の中、後方確認に気を取られ、また後続大型車両が視界に入り、慌ててハンドル操作をした。
 - 側溝に蓋をしていなかった。

再発防止策

- (3) トランシーバーの使用時は停車すること、よそ見・ながら運転禁止を指導。路肩にカラーコーンを増設、のぼり旗を設置。
- (4) バック時の注意事項等の交通安全指導の実施。
 - 側溝蓋を設置。

交通事故（通勤車両の人身事故）

事例の概要

通勤車両の一般車両（乗用車）との衝突

2019年11月18日 18時0分頃 <清水JV>

- 飯舘村の仮置場の作業員が運転する通勤車両（運転者を含め3名乗車、ワンボックスカー）が、帰宅のため本宮市内の県道118号線を走行中、対向車線にはみ出し一般車両（乗用車）と衝突した。
- 一般車両（乗用車）の運転者（同乗者なし）、当該車両の3名が救急搬送された。
- 一般車両（乗用車）の運転者は左手首捻挫、胸部打撲等と診断。当該車両の3名は、肋骨骨折、腹腔内出血、骨盤部打撲等と診断。

発生要因

- 飲み物を取って飲もうとして、暗い道で目線をそらし、緩い左カーブで対向車線にはみ出した。
- 通勤ルートで慣れており、注意が不足していた。

再発防止策

- ながら運転・脇見運転の危険性及びその禁止について周知。
- 緊急安全大会で事例周知・教育。

交通事故（通勤車両の物損（対物）事故）

事例の概要

通勤車両の側溝への脱輪

2019年11月23日 6時28分頃 <鹿島JV>

- 交通誘導員の通勤車両が、大熊町内の国道288号の工事用信号機による片側交互規制区間を走行中、道路脇の側溝に脱輪した。

発生要因

- 体調不良で運転に集中できていなかった。

再発防止策

- 体調の変化を少しでも感じた場合は体調不良として認識し、休むことを徹底するよう周知。
- 作業員が休んだ場合も、班編成を再構築し、対応可能な体制にする。

公道での事例（輸送車両の運転手の交通違反）

事例の概要

輸送車両の運転手の交通違反

- (1) 郡山市からの輸送車両(空荷)が、輸送を終了しスクリーニングを終えてゲートを出て、大熊町内の国道6号を走行中、車載器(タブレット型の音声ナビ)の向きを直そうとしたところ、ながら運転(携帯電話使用等)として警察の取締りを受けた。
(2019年11月19日) <日新土建>
- (2) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、同町内を走行中、座席ベルト装着義務違反で警察の取締りを受けた。
(2019年12月12日) <清水JV>
- (3) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、南相馬ICから常磐自動車道(上り)にのるためETCゲートを通る際、座席ベルト装着義務違反で警察の取締りを受けた。
(2020年2月4日) <清水JV>

発生原因

- (1) 車載機の角度が気になり、運転しながら台座から外して直そうとした。
- (2) 仮置場を出発後、荷台後部のシートを固定するゴムバンドが外れたため、一旦停止して直した後に、シートベルト装着を失念した。
- (3) 南相馬市内で赤信号で停止した際に、助手席にあった飲み物を取るためにシートベルトを外し、再装着を失念した。

再発防止策

- (1) ながら運転、運転中に運転から意識がそれる行動の禁止の指導。
- (2) 発進前シートベルト装着の徹底指導。
 - 荷台のシートを固定するゴムバンドは、運転手も出発前に確実に確認を行うよう徹底。
- (3) 運転中は信号待ち時も含めてシートベルトを外さないこと、飲み物等の必要品の出発前確認、車内の整理整頓、シートベルト未装着警報音の事前確認を指導。ハンドル・ドアに注意喚起シールを貼付。音声ナビにシートベルト装着確認を追加。

公道での事例（輸送車両の輸送カード誤発行）

事例の概要

除去土壌等の輸送車両のカード誤発行

- 双葉町からの輸送車両が、仮置場を出発後まもなくアラートが鳴ったため、停止・待機した。前号車と同じ輸送カードが発行されていたため、正しい輸送カードを発行し輸送を再開した。

(2019年9月2日) <前田JV>

発生原因

- 輸送カード発行担当者が、パソコンの操作を誤り前号車の輸送カードを再び発行した。また、発行した輸送カードの記載内容を確認しなかった。
- 運転手が、輸送カードの記載内容を確認しなかった。また、アラートが鳴っていたが、内容を理解せず「開始」ボタンを連打し強制承認させた。

再発防止策

- 運転手が輸送カード内容を確認し、チェックを記入する。
- 車両端末の輸送アプリケーションを改良し、輸送開始の強制承認ができないようにする。

公道での事例（輸送ルート逸脱①）

事例の概要

- (1) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道下り線大熊ICでおりにべきところを、直進した。
(2019年8月6日) <清水JV>
- (2) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道下り線浪江ICでおりにべきところを、直進した。
(2019年8月26日) <大成JV>
- (3) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、県道12号線から右折して、常磐自動車道南相馬ICへ入るべきところを、直進した。
(2019年8月28日) <西松JV>
- (4) 富岡町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道6号新夜ノ森交差点で左折すべきところを、直進した。
(2019年8月28日) <大林JV>
- (5) 白河市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道下り線大熊ICでおりにべきところを、直進した。
(2019年8月31日) <大林JV>
- (6) 浪江町からの輸送車両(空荷)が、3回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道253号線の交差点で左折すべきところを、直進した。
(2019年9月2日) <清水JV>
- (7) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道上り線を走行中、浪江ICでおりにべきところを、直進した。
(2019年9月3日) <大成JV>
- (8) 川俣町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道288号の交差点で右折すべきところを、直進した。
(2019年9月6日) <大林JV>
- (9) 檜葉町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、東大和久ゲートから退出すべきところを、県道252東ゲートから退出した。
(2019年9月13日) <大林JV>
- (10) 川俣町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道252東ゲートから退出すべきところを、東大和久ゲートから退出した。
(2019年9月13日) <大林JV>
- (11) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道矢吹ICよりあぶくま高原道路へ向かうべきところを、直進した。
(2019年9月14日) <清水JV>
- (12) 浪江町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道35号線から県道253号線へ右折すべきところを、直進した。
(2019年9月19日) <清水JV>

公道での事例（輸送ルート逸脱②）

事例の概要

- (13) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道上り線郡山JCTで磐越自動車道いわき方面に向かうべきところを、直進した。
(2019年10月9日) <大林JV>
- (14) 南相馬市からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場へ戻る途中、県道12号線の交差点で市道へ右折すべきところを、直進した。
(2019年10月10日) <大林JV>
- (15) 広野町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場へ戻る途中、常磐自動車道広野ICでおりにべきところを、直進した。
(2019年10月17日) <大林JV>
- (16) 飯舘村からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道12号線の交差点で村道へ左折すべきところを、直進した。
(2019年10月17日) <前田JV>
- (17) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道下り線大熊ICでおりにべきところを、直進した。
(2019年10月17日) <清水JV>
- (18) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、県道31号線の交差点で村道へ右折すべきところを、直進した。
(2019年10月18日) <前田JV>
- (19) 飯舘村からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道12号線の交差点で村道へ左折すべきところを、直進した。
(2019年10月18日) <前田JV>
- (20) 飯舘村からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、ふるさと農道から左折して新跨道橋へ向かうべきところを、直進した。
(2019年10月23日) <西松JV>
- (21) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道上り線郡山JCTへ向かうべきところを、福島西ICでおりにた。
(2019年10月28日) <清水JV>
- (22) 南相馬市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道上り線浪江ICでおりにべきところを、直進した。
(2019年10月29日) <前田JV>
- (23) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、国道4号から県道387号線へ左折すべきところを、直進した。
(2019年10月30日) <大林JV>
- (24) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道郡山JCTから磐越自動車道へ向かうべきところを、直進した。
(2019年11月2日) <清水JV>

公道での事例（輸送ルート逸脱③）

事例の概要

- (25) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道郡山JCTから磐越自動車道へ向かうべきところを、直進した。
(2019年11月7日) <鹿島JV>
- (26) 天栄村からの除去土壌等の輸送車両が、中間貯蔵施設工区内で向畑保管場に向かうべきところを、三角屋ゲートから中間貯蔵施設工区区域外に退出した。
(2019年11月7日) <清水JV>
- (27) 富岡町からの輸送車両(空荷)が、向畑ゲートから退出すべきところを、東大和久ゲートから退出した。
(2019年11月11日) <清水JV>
- (28) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道下り線大熊ICでおりるべきところを、直進した。
(2019年11月12日) <大林JV>
- (29) 川俣町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場へ戻る途中、国道114号から県道62号線へ左折すべきところを、直進した。
(2019年11月18日) <大林JV>
- (30) 川内村からの除去土壌等の輸送車両が、県道252号線からスポーツセンター交差点で左折すべきところを、直進した。
(2019年11月20日) <戸田JV>
- (31) いわき市からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、常磐自動車道いわきJCTで磐越自動車道に向かうべきところを、直進した。
(2019年11月27日) <清水JV>
- (32) 葛尾村からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道6号から国道114号へ左折すべきところを、一つ手前の交差点で左折した。
(2019年11月28日) <西松JV>
- (33) 双葉町からの除去土壌等の輸送車両が、国道288号から町道の富沢橋に右折すべきところを、直進した。
(2019年11月30日) <前田JV>
- (34) いわき市からの除去土壌等の輸送車両が、県道391号線を経由して県道251号線を右折すべきところを、直進した。
(2019年12月4日) <大林JV>
- (35) 葛尾村からの除去土壌等の輸送車両が、国道288号を直進すべきところを、県道35号線へ右折した。
(2019年12月9日) <鹿島JV>
- (36) 天栄村からの除去土壌等の輸送車両が、県道252号線から大熊スポーツセンターETCゲート方面へ右折すべきところを、直進した。
(2019年12月9日) <清水JV>

公道での事例（輸送ルート逸脱④）

事例の概要

- (37) 川俣町からの除去土壌等の輸送車両が、国道114号から町道六福線に右折すべきところを、直進した。
(2019年12月10日) <大林JV>
- (38) 飯舘村からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、県道31号線を直進すべきところを、村道へ左折した。
(2019年12月12日) <前田JV>
- (39) 川俣町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道114号から県道62号線へ左折すべきところを、直進した。
(2019年12月20日) <前田JV>
- (40) 葛尾村からの除去土壌等の輸送車両が、国道288号から町道の富沢橋に右折すべきところを、直進した。
(2019年12月23日) <前田JV>
- (41) 伊達市からの除去土壌等の輸送車両が、東北中央自動車道相馬福島道路相馬山上ICで下りるべきところを、直進した。
(2019年12月23日) <前田JV>
- (42) いわき市からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、常磐自動車道(上り)広野ICで下りるべきところを、直進した。
(2020年1月7日) <大林JV>
- (43) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりにるべきところを、一つ手前の常磐富岡ICでおりにた。
(2020年1月14日) <大林JV>
- (44) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道大熊ICでおりにるべきところを、直進した。
(2020年1月16日) <鹿島JV>
- (45) 葛尾村からの除去土壌等の輸送車両が、国道288号から富沢橋方向に右折すべきところを、直進した。
(2020年1月21日) <大林JV>
- (46) 富岡町からの輸送車両(空荷)が、3回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道6号から県道251号線へ左折すべきところを、直進した。
(2020年1月23日) <清水JV>
- (47) 浪江町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、町道111号線から町道493号線へ右折すべきところを、直進した。
(2020年2月3日) <清水JV>
- (48) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、県道252号線から中央台交差点手前の町道東84号線へ左折すべきところを、直進した。
(2020年2月3日) <大林JV>

公道での事例（輸送ルート逸脱⑤）

事例の概要

- (49) 伊達市からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、スクリーニング場を出てふるさと農道へ左折すべきところを、右折後左折して中央台ETCゲートから退出した。
(2020年2月4日) <清水JV>
- (50) 浪江町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため仮置場に戻る途中、国道6号の高瀬交差点で県道253号線に右折すべきところを、直進した。
(2020年2月13日) <西松JV>

輸送ルート逸脱後の対応

- 輸送ルートからの逸脱は、総合管理システムのアラートが鳴ることにより気づく場合が多いが、逸脱後に運転手自らが気づく場合もあった。
- 逸脱後は、安全な場所に待機し、JVが安全に輸送ルートに復帰する方法を環境省と確認するなどした後、正規ルートに復帰した。

再発防止策

- 運転手に対し、走行ルート、タンデム走行についての再教育を実施。
- 実走訓練、添乗指導の実施。
- 逸脱発生箇所について車載音声ナビに追加。
- 逸脱発生箇所への注意看板の設置。
- 案内標識での安全呼称実施の徹底。
- 先導車がルート逸脱をした際の後続車対応の再確認。
- 日々の朝礼や定期研修等で、ルートを誤りやすい箇所等について、ハザードマップ・画像によるテスト等を用いた確認の実施。

公道での事例（輸送車両のエンジントラブル①）

事例の概要

- (1) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が村道を走行中、速度が低下してエンジン異常ランプ点灯が発生し、安全な場所に停止・待機した。修理業者がその場での修理は不可と判断し、レッカー車で仮置場に戻った。
(2019年8月9日) <清水JV>
- (2) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が常磐自動車道(上り)を走行中、エンジンから異音が発生し路肩に停止・待機した。自走不可能と判断し、最寄りの仮置場にけん引、代替車両に積み替えて輸送を継続した。
(2019年8月20日) <西松JV>
- (3) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、同市内の国道115号を走行中にオーバーヒートを起こし、道路脇の待避所に停止・待機した。修理業者によりクーラント液を補充後、仮置場まで戻った。
(2019年8月22日) <大成JV>
- (4) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、エンジンから異音があり、減速したため、三春PAに入り停止・待機した。ターボチャージャー用インタークーラーホースの外れを修理し、輸送を継続した。
(2019年8月29日) <大林JV>
- (5) 浪江町からの輸送車両(空荷)が、輸送を終了して双葉町内の町道209号線を走行中、アイドリングからエンジン回転数が上がらなくなり、停止・待機した。レッカー車で移動し、厚生病院入口東ゲートから退出した。
(2019年9月28日) <清水JV>
- (6) 南相馬市からの除去土壌等の輸送車両が、双葉町内の県道35号線を走行中、エンジンの警告灯が点灯したため、安全な場所で停止・待機した。同町内の仮置場へ移送し代替車両に積み替え、輸送を継続した。
(2019年10月23日) <大林JV>
- (7) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道から常磐自動車道(下り)へ入り走行中、エンジントラブルにより、路肩に停止・待機した。レッカー車で移動し、代替車両に積み替えて輸送を継続した。
(2019年10月29日) <大林JV>
- (8) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し約2km走行したところでエンジン警告灯が点灯し、県道55号線の路肩に停止・待機した。JV職員の先導で仮置場に戻った。(2019年10月30日) <鹿島JV>
- (9) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、浪江ICから国道114号への接続道路を走行中、エンジントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。近傍の仮置場へレッカー車で移動、代替車両に積み替えて輸送を継続した。
(2019年11月6日) <清水JV> 27

公道での事例（輸送車両のエンジントラブル②）

事例の概要

- (10) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道(下り)を走行中、ABS異常の警告灯が点灯するとともに、ハンドルに不具合が発生し、路肩に停止・待機した。レッカー移動により仮置場に戻った。
(2019年11月13日) <日新土建>
- (11) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、東北自動車道(上り)を走行中、エンジン警告灯が点灯し、安全な場所で停止・待機した。修理業者が修理不可と判断し、本宮市の仮置場にレッカーで移動し、代替車両に積み替え、輸送を継続した。
(2019年11月16日) <大林JV>
- (12) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、休憩場所である磐越自動車道差塩PAに到着後、水温警告灯が点灯したため点検したところ、キャビン下付近からのクーラント液漏れが確認された。修理業者による修理完了後、タンDEM車と輸送を継続した。
(2019年12月23日) <大成JV>
- (13) 大玉村からの除去土壌等の輸送車両が、県道304号線を走行中、エンジン警告灯が点灯し、安全な場所に停止・待機した。自走で仮置場に戻った。
(2020年1月9日) <大林JV>
- (14) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道(上り)を走行中、エンジン警告灯が点灯し、路肩に停止・待機した。差塩PAの輸送車両専用駐車スペースに自走で移動し、代替車両へ積み替えて輸送を継続した。
(2020年1月10日) <大成JV>
- (15) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道(下り)を走行中、エンジン警告灯が点灯し、路肩に停止・待機した。四倉PAまで自走で移動し、修理業者による点検・修理完了後、輸送を継続した。
(2020年1月23日) <大林JV>
- (16) 南相馬市からの輸送車両(空荷)が仮置場に戻るため、同市内の県道34号線を走行中、回転数が落ちるとともにエンジン警告灯が点灯し、安全な場所で停止・待機した。レッカー車でディーラーに移動した。
(2020年1月29日) <前田JV>
- (17) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道を走行中、エンジン警告灯が点灯し、差塩PAで停止・待機した。ディーラーの点検を行ったが修理不可と判断し、代替車両に積み替えて輸送を継続した。
(2020年1月30日) <大林JV>
- (18) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道を走行中、エンジン警告灯が点灯し、四倉PAに停止・待機した。修理業者が短期的な走行は可能と判断し、輸送を継続した。(2020年1月31日) <鹿島JV>

公道での事例（輸送車両のエンジントラブル③）

事例の概要

- (19) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、走行中にエンジンから異音が発生したため磐越自動車道三春PAに入り、停止・待機した。修理業者が現地での修理不可と判断し、代替車両に積み替えて輸送を継続した。
(2020年2月11日) <大成JV>

発生要因

- (1) エンジンオイルの不足によるオーバーヒート。
- (2) シリンダーガスケットの破損によるエンジン不具合。
- (3) 冷却液不足によるエンジンオーバーヒート。
- (4) インタークーラー・ホースクランプの腐食脱落によるエンジン出力低下。
- (5) エンジンオイル汚染による潤滑系統の目詰まり。
- (6) ラジエーターの破損による冷却液漏れ。
- (7) ECUの基盤損傷故障によるエンジン出力低下。
- (8) エンジンオイル冷却用サーモバルブ・センサーの故障。
- (9) エンジン・ターボチャージャー故障。
- (10) エンジン冷却用ファンクラッチのショート。
- (11) ラジエーターの破損による冷却液漏れ。
- (12) 冷却系統のホースバンドの緩みによるクーラント液の漏れ。
- (13) 燃料フィルター及びストレーナーの汚れによる燃料供給不良。
- (14) ターボチャージャー本体の不具合。
- (15) ターボ系統EGRバルブ本体の経年劣化。
- (16) インジェクター・ハーネス被覆の経年劣化。
- (17) 燃料噴射ポンプ(サブライポンプ)の経年劣化。
- (18) EGRバルブの経年劣化。
- (19) クーリングファン内部のマグネットクラッチの固着。

再発防止策

- 日常点検、定期点検等の確実な実施。
- 部品の定期交換。
- 発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。

公道での事例（輸送車両のタイヤのパンク①）

事例の概要

- (1) 本宮市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道上り線差塩PA手前付近を走行中、左前輪がパンクした。路側帯に停止・待機後、レッカー車で差塩PAへ移動し代替車両に積み替えて輸送を継続した。
(2019年8月6日) <大成JV>
- (2) 西郷村からの除去土壌等の輸送車両が、休憩のため磐越自動車道差塩PA内に入ったところで、左側最後輪外側のタイヤがパンクした。運転手がスペアタイヤと交換。JV職員他が空気圧測定を実施後、輸送を継続した。
(2019年8月8日) <清水JV>
- (3) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、磐越自動車道三春PAで休憩後、出発前点検を行った際、左後輪がパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換後、輸送を継続した。
(2019年8月23日) <前田JV>
- (4) 郡山市からの除去土壌等の輸送車両が、休憩のため磐越自動車道差塩PAに入った際、右フロントタイヤがパンクしているのを発見した。修理業者によるタイヤ交換を行い、輸送を継続した。
(2019年8月26日) <大林JV>
- (5) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、休憩のため磐越自動車道三春PAに入り停車中、誘導員が右後輪のパンクを確認した。修理完了後、輸送を継続した。
(2019年8月28日) <大成JV>
- (6) 伊達市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道(上り)南相馬ICから5km付近で、後右外側のタイヤがバーストし、路側帯に停止・待機した。タイヤ交換後、輸送を継続した。
(2019年8月31日) <西松JV>
- (7) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、双葉町内の町道前田大熊線を走行中に、右前輪タイヤがパンクしたため安全な場所に停止・待機した。パンク修理完了後に輸送を継続した。
(2019年9月12日) <戸田JV>
- (8) 川俣町からの輸送車両(空荷)が、2回転目の輸送のため浪江町内の国道114号を仮置場に向かっている途中で、左側最後輪内側のタイヤがパンクしたため安全な場所に停止・待機した。パンク修理完了後、仮置場に戻り、輸送を中止した。
(2019年9月18日) <前田JV>

公道での事例（輸送車両のタイヤのパンク②）

事例の概要

- (9) 桑折町からの除去土壌等の輸送車両が、休憩のため磐越自動車道三春PAに入り、停車中にタイヤ点検した際、左後輪の前部内側がパンクしていることを確認した。タンデム車の運転手とタイヤ交換を実施し、輸送を継続した。
(2019年10月21日) <大成JV>
- (10) 桑折町からの除去土壌等の輸送車両が、休憩のため磐越自動車道差塩PAに入り、再出発の点検の際、後部左外側のタイヤにボルトが刺さってパンクしていることを確認した。タイヤの交換後、輸送を継続した。
(2019年12月18日) <大成JV>
- (11) 桑折町からの除去土壌等の輸送車両が、休憩のため磐越自動車道差塩PAに入り、再出発の点検の際、後部右外側のタイヤにボルトが刺さってパンクしていることを確認した。タイヤの交換後、輸送を継続した。
(2019年12月25日) <大成JV>
- (12) 本宮市からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発し常磐自動車道を走行中、右側後輪の外側のタイヤがバーストしたため、低速走行でならばPAまで走行し、停止・待機した。修理業者がスペアタイヤと交換し、輸送を継続した。
(2020年1月22日) <大成JV>
- (13) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、常磐自動車道(下り)を走行中、右側前輪のタイヤがパンクし、いわき中央IC手前の路側帯に停止・待機した。修理業者によりタイヤ交換修理後、輸送を継続した。
(2020年1月23日) <前田JV>

発生要因

- 輸送路上又は現場内で釘やネジ等の鋭利な物を踏んだ。
- タイヤの損耗。

再発防止策

- 始業前点検、出発前点検、日常点検等の確実な実施・徹底。
- 発生事例について周知。
- 路上等の落下物等の注意喚起。
- タイヤの溝の基準値の設定と定期的な測定、基準に満たないタイヤの交換。

公道での事例（輸送車両のミッション部故障）

事例の概要

- (1) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、浪江町内の町道六福線上でミッションギヤが入らず停止した。修理業者到着後に応急処置によりギヤが入るようになり、低速でJV事務所まで移動した。代替車両に積み替え輸送を継続した。（2019年8月7日）＜大成JV＞
- (2) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、県道31号線と飯舘村道の交差点内でミッショントラブルにより停止・待機した。修理不可と判断し、レッカー車で積込場まで移動後、荷下ろしした。（2019年9月7日）＜西松JV＞
- (3) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、同村内を走行中に駆動力の低下が発生し、安全な場所で停止・待機した。30km/時程度で自走可能であったため、仮置場に戻った。（2019年11月18日）＜前田JV＞
- (4) 浪江町からの除去土壌等の輸送車両が、同町内の国道114号を走行中、ミッショントラブルが発生し、安全な場所で停止・待機した。自走不可能であったためレッカー車を手配し、仮置場に戻った。（2019年11月30日）＜清水JV＞
- (5) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、浪江町内の町道六福線を走行中、ギアチェンジしようとしたが、変速不能（3速固定）となり停止・待機した。修理完了後、輸送を継続した。（2020年2月8日）＜大成JV＞

発生要因

- (1・3) クラッチ板の摩耗。
- (2) シフトブロック等の摩耗および各ギヤコントロールシステムの経年使用による摩耗。
- (4) 経年劣化（金属疲労と摩耗）に伴うクラッチミニパックプッシュロッド折損。
- (5) ミッションリンケージ・ロッドジョイント固定用ナットの脱落によるギヤシフト・チェンジ不能故障。

再発防止策

- (1) 輸送業務は、走行距離100万km以下のダンプとする。
 - (2) 定期点検時、ミッションオイルの適時交換と、交換したオイルの異常の確認を整備者に依頼。
 - (3) クラッチペダルの踏み方、回転数に応じた速度確認、日常点検について、添乗指導を実施。
 - (5) 変速ケーブルとパワーシフトを規定トルクで再締付。
- (1～5) 部品交換。発生事例や、日常点検・走行時の異常兆候早期発見の重要性等の周知。

公道での事例（輸送車両のブレーキ故障）

事例の概要

- (1) 双葉町からの除去土壌等の輸送車両が、同町内の県道35号線を走行中、エアブレーキ用エアチューブが破裂しサイドブレーキがロック状態になり道路脇に停止・待機した。レッカー車で仮置場へ戻った。
(2019年9月25日) <前田JV>
- (2) 飯舘村からの輸送車両(空荷)が、1回転目の輸送の荷下ろし後、エアコンプレッサ系のトラブルにより自走不可能となった。レッカーを手配し、車両のスクリーニング後、整備工場に搬送した。
(2019年11月25日) <西松JV>
- (3) 天栄村からの除去土壌等の輸送車両が、あぶくま高原道路を走行中、エンジン警告灯が点灯し、路側帯に停止・待機した。修理業者の修理完了後に輸送を継続した。
(2020年1月10日) <清水JV>
- (4) 二本松市からの除去土壌等の輸送車両が、同市内の県道40号線を走行中、エアータンクからエアが洩れ、ブレーキがロック状態となり、安全な場所に停止・待機した。修理業者の修理後、仮置場に戻った。
(2020年1月27日) <前田JV>
- (5) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、県道12号線を走行中、スピードが上がらず、仮置場から約2.5km付近の路肩に停止・待機した。低速走行は可能なため、JV先導車と仮置場に戻った。
(2020年2月4日) <前田JV>

発生要因

- (1) ブレーキ(エアータンク)の損傷。
- (2) エアコンプレッサ内部にカーボンがたまり外気の取り込みが不能となった。
- (3) ブレーキエアホース破損。
- (4) ブレーキチャンバーエアホースの亀裂。
- (5) サイドブレーキワイヤーのゴムブーツ内に水が入り凍結。

再発防止策

- (1~5) 始業前点検・定期点検の確実な実施・徹底。
 - (1) 日常点検で、テールパイプの向きを点検に追加。
 - (2) 車両の状態(異音や液漏れ等)に注意する。
 - (3) 点検時に漏洩音に注意する。

公道での事例（輸送車両のその他故障等）

事例の概要

- (1) 郡山市からの輸送車両が、磐越自動車道差塩PAに到着後、燃料漏れがあることを発見した。本線から差塩PAの引き込み道路にも漏れた跡があった。吸着マットやタオルで養生し、駐車場を清掃した。NEXCO東日本より、本線上の清掃は必要ないとの判断を得て、輸送を継続した。（2019年8月7日）＜大林JV＞
- (2) 葛尾村からの除去土壌等の輸送車両が、仮置場を出発して1km程度走行した際、車両のDPF（ディーゼル・パーティキュレーション・フィルター）の警告表示が点灯した。他の通行車両の妨げになると判断し、タンデム車とともに仮置場へ戻った。（2019年9月16日）＜大林JV＞
- (3) 飯舘村からの除去土壌等の輸送車両が、同村内の県道12号線を走行中、エンジントラブルにより安全な場所で停止・待機した。修理業者を手配し修理完了後、JV先導により輸送を継続した。（2019年12月12日）＜前田JV＞
- (4) 郡山市からの輸送車両が、常磐自動車道の広野IC付近を走行中、荷台シートのゴムバンドが切れていることを発見して停止した。その場で応急措置を行った上で、ならばPAまで行き、ゴムバンドの交換を行って輸送を継続した。（2019年12月27日）＜大林JV＞
- (5) 福島市からの除去土壌等の輸送車両が、同市内の国道115号を走行中、エンジン警告灯が点灯し、安全な場所に停止・待機した。修理業者が修理不可と判断し、仮置場に戻った。（2020年1月14日）＜大成JV＞

発生要因

- (1) 燃料ドレンボルトの緩み。
フューエルエレメント交換時のエア抜きプラグの締付不足。
- (2) ディーラーで点検したが、原因の特定はできなかった。
- (3) バッテリーケーブル接続時の締付不足。
- (4) ゴムバンドの劣化の見落とし。
- (5) 車速センサーの経年劣化。

再発防止策

- (1～3) 始業前点検・定期点検の確実な実施・徹底。
 - (1) 当該整備会社で車検・整備を実施した車両についてプラグ締付の一斉点検。日常点検で確認できる箇所の油脂関連装置の入念な点検。
 - (2) 事例周知。
 - (3) 日常点検でバッテリー接続部の触診点検。
 - (4) 仮置場出発前に、仮置場担当者と運転手とで、ゴムバンド劣化等のダブルチェックを徹底。休憩PAでの再チェックの徹底。
 - (5) 車検・定期点検時に車速センサーの取付状態及び締付状態の確認。

事例の概要

- ベルトコンベアへのはさまれによる作業員の死亡事故 2019年10月28日 10時2分頃 <鹿島JV>
- 受入・分別施設の運転中、土質改良機の手前のベルトコンベアの駆動モーターが過負荷停止したため、現場を確認したところ、ベルトコンベアの下部ベルトとプーリーとの間にはさまれた状態の被災者を発見した。
 - 現場で心肺蘇生措置を行い、救急車で病院へ搬送したが、死亡が確認された。
 - 被災者は、受入・分別施設内の機械設備の目視点検を行っていた。

発生要因

- 点検時の手順の不遵守。ベルトコンベアを停止させずに立入禁止区画に入った。
- 立入禁止措置は設置していたが、ベルトコンベアの回転部に接近できる構造だった。
- 機械の運転上不必要な作業（回転部に付着した土壌等をケレン棒で除去）を行おうとした。

再発防止策

- 作業場の基本ルール（立入禁止区画への進入禁止、稼働中機械への接近禁止等）を再確認し、全作業員に繰り返し教育。
- 可動部に接近する可能性のある全箇所にネットフェンスを設置し施錠管理。
- 点検・整備手順書を明確化し、繰り返し教育。

環境省から、ベルトコンベア等へのはさまれ災害のおそれがある全工事の受注者に対し、①②の実施を指示。

①立入防止柵の設置

- ベルトコンベアの可動部等、巻き込まれや接触による災害のおそれのある危険箇所の洗い出しを行う。
- 危険箇所への立入や接触ができないよう、ネットフェンスやバリケード等の堅固な立入防止柵を設置するとともに、施錠管理等を行い、許可なく近づくことができない状態にする。

②作業手順等の現場ルールの徹底

- ベルトコンベア可動部等の危険箇所について、現場において確認しながら、「可動部には、運転時は絶対近づかない、触らないこと」を再教育。
- 危険箇所の洗い出しを行う中で必要に応じて作業手順書の見直しを行い、繰り返し教育。
- 「安全第一」を改めて周知徹底。異常等があれば躊躇なく機械停止や作業中止をするよう繰り返し教育。

作業場での事例（墜落、転落によるけが①）

事例の概要

(1) 墜落による作業員のけが

2019年9月16日 16時35分頃 <五洋建設>

- 大熊町の技術実証フィールドの分析棟プレハブの組立作業員が、作業終了後に2階で点検中、開口部に仮設作業床として設置していたデッキプレートに乗ったところ、デッキプレートが滑動して作業員も一緒に墜落した。
- 左肘骨折と診断。

発生要因

(1) 未固定のデッキプレートに乗った。

- 仮設作業床の固定方法の具体的な作業手順がなかった。職長は、仮設作業床の固定を指示していなかった。
- KY活動において、仮設作業床や開口部からの墜落の危険について抽出できていなかった。
- 安全帯を使用していなかった。

再発防止策

- (1) 仮設作業床の固定及び開口部の養生の方法を作業手順書に明記し、周知徹底する。
 - 開口部に手摺及び巾木を追加設置する。
 - 墜落危険箇所から1m以内の範囲を安全帯使用範囲とし、作業手順書及び危険箇所マップに明示して周知する。
 - 元請事業者が仮設作業床の固定や開口部の養生の状況を確認した上で、作業を許可する。
 - 朝礼・KY活動時に、危険箇所について元請事業者から説明し注意喚起する。

作業場での事例（墜落、転落によるけが②）

事例の概要

(2) 転落による作業員のけが

2019年10月2日 9時40分頃 <清水JV>

- ベルトコンベアの整備工事中、歩廊（点検通路）の上で塗装作業を行っていた作業員が、作業場所を変えようとして足を滑らせ、開口部となっていた歩廊の端部から転落した。
- 脳震とう、肋骨及び右鎖骨の骨折と診断。

発生要因

- (2) フルハーネス型の安全帯を着用していたが、作業場所を移動するためにフックを外した。
- 端部に堅固な囲いがなかった。

再発防止策

- (2) 安全帯を掛け替える必要のある箇所では、二丁掛けのものを使用し、常にフックが掛かっているようにする。
- 安全帯使用に関する再教育、服装・作業装備の点検を行う。
 - 端部に単管等による堅固な囲いを設置する。
 - 勾配のある歩廊等には滑り止めテープを設置する。



事故発生時の状況

作業場での事例（墜落、転落によるけが③）

事例の概要

(3) 墜落による作業員のけが

2019年12月6日 14時5分頃 <清水JV>

- 保管場で、除去土壌等の荷下ろし前の情報登録作業を輸送車両の荷台上で行っていた作業員が、車両が発進したため荷台から落ちた。車両側面に設置した作業用足場に安全帯を掛けていたため地上に落下することはなかったが、宙吊りになり足場に激突した。
- 左薬指のマレット指及び腰椎間板ヘルニアと診断。

発生要因

- (3) 輸送車両の誘導員が、作業員が荷台上にいるにもかかわらず、車両停止明示用のカラーコーンを外した。
- 車両誘導員は、2箇所荷下ろし登録場の誘導を兼務していた。
 - 輸送車両の運転手は、車両停止明示用のカラーコーンが外され、かつ、車両誘導員と定置場誘導員の無線のやり取りが聞こえていたため、発進して良いと思い込んだ。
 - タイヤ輪留めをしていなかった。

再発防止策

- (3) 車両停止措置として、視認性の良いチェーンを使用し、かつ輪留めを行う。
- 荷下ろし登録作業員が荷台から退避しなければ車両が発進できない作業手順を具体的に定め、作業員、車両誘導員、輸送車両運転手に周知徹底する。
(荷下ろし登録作業員が荷台から退避した後に車両誘導員に合図する。車両誘導員は荷下ろし登録作業員の退避を確認後に輪留めとチェーンを撤去し、その後に輸送車両運転手に定置場所を指示する。運転手は、定置場所の指示を受けたらサイドミラーで作業員の退避状況を確認した上で、エンジンを始動し発進する。)
 - 車両誘導員を荷下ろし登録場毎に配置する。

作業場での事例（転倒によるけが①）

事例の概要

(1) 転倒による作業員のけが

2019年10月10日 17時0分頃 <清水JV>

- 作業員が作業終了後に地盤改良機械のグラウト圧送ホースを固定するロープにつまづいて転倒し、敷鉄板に左肩を打ち付けた。
- 左肩骨折と診断。

(2) 転倒による作業員のけが

2019年11月1日 11時25分頃 <大林JV>

- 除去土壌等の搬出後の仮置場で遮光シートを撤去するため、シートにフック用の穴を開けてクレーンで吊り上げ、シートの固定ピンを抜く作業を行っていたところ、シートが破れてフックから外れ、落下した。直近で合図をしていた作業員が逃げようとして足を滑らせ、落下してきたシートが被さりながら転倒した。
- 右膝下頸骨・腓骨及び肋骨の骨折と診断。

発生要因

- (1) ロープが安全通路を横断していた。
 - (2) シート上の堆積土砂や固定工を撤去せずにシートを吊り上げたため、負荷が掛かった。
- 作業区画が明確に仕切られておらず、吊荷の直近で合図をしていた。

再発防止策

- (1) 安全通路上に支障物がないよう毎日点検することを周知徹底する。
 - (2) 作業手順を安全なものに変更して周知する。
- 作業範囲を明確化するとともに、重機作業範囲内からの退避について周知徹底する。

作業場での事例（転倒によるけが②）

事例の概要

- (3) 転倒による輸送車両運転手のけが 2019年11月29日 8時0分頃 <清水JV>
• 福島市の仮置場で輸送車両の運転手が降車する際に、窪地に着地した右足を滑らせて転倒した。
• 右大腿骨頸部骨折と診断。
- (4) 転倒による交通誘導員のけが 2019年12月10日 16時0分頃 <安藤・間JV>
• 交通誘導員が、作業終了後に自分の車に乗り込もうとした際、バランスを崩し右足を捻って転倒した。
• 右足踵骨骨折と診断。
- (5) 転倒による作業員のけが 2020年2月20日 7時5分頃 <前田JV>
• 二本松市の仮置場作業員が朝礼終了後、現場内を移動中、バランスを崩して転倒しそうになり、側にいた別の作業員の身体を掴んだが、そのまま転倒した。掴まれた作業員も同時に転倒し、被災者の上に乗りがかった状態になった。
• 右股関節脱臼と診断。

発生要因

- (3) 着地する前に昇降手すりから手を離した。着地する地面の様子を目視確認していなかった。
(4) 注意不足。
(5) 足下の確認が足りずにバランスを崩した。

再発防止策

- (3) 車両等への昇降を行う際には3点支持を徹底するよう、注意看板を設置して教育訓練を行う。
(4) 段差箇所やつまづきやすい場所に注意喚起看板を設置するとともに、足下注意の教育を実施。
(5) 転倒災害防止について教育を実施。

作業場での事例（激突によるけが①）

事例の概要

(1) 足場の転倒による作業員のけが

2019年11月14日 13時0分頃 <前田JV>

- 保管場で、輸送されてきた除去土壌等のタグの読み取り作業に従事する作業員が、突風にあおられて転倒した可搬式足場（重量約300kg程度）の下敷きになった。
- 右足指の骨折、背部の打撲等と診断。

発生要因

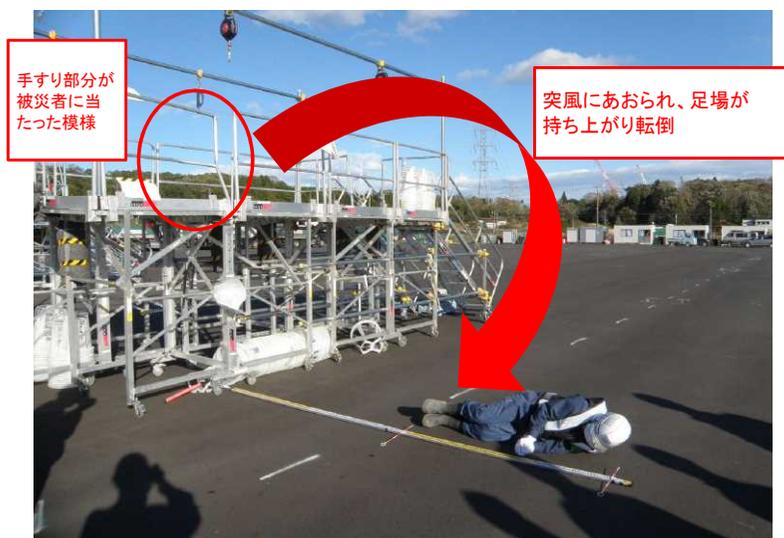
(1) 可搬式足場の滑動防止ロックは行っていたが、転倒防止措置を講じていなかった。

- 強風による作業中止基準（10分間の平均風速が10m/秒以上）を定めていたが、突風に対しての中止判断が十分ではなかった。

再発防止策

(1) 可搬式足場の転倒防止措置として、重しを乗せて自重を増やし安定性を高める。

- 強風の予報が出ている場合、風速計のデータを確認し、突風が起きることが予測される場合（瞬間風速20m/秒測定時）は、JV職員が即座に作業を中止する。



事故発生時の状況（再現）

作業場での事例（激突によるけが②）

事例の概要

(2) 大型土のうの荷振れに伴う作業員のけが

2019年12月6日 15時45分頃 <戸田JV>

- 保管場において、ラフタークレーンで大型土のうを吊り上げて定置する作業を行っていた。一旦仮定置させた大型土のうの位置を直すために、玉外し作業員の合図により再び吊り上げた際、大型土のうが玉外し作業員の方向に荷振れした。玉外し作業員が、荷振れした大型土のうに押されて後退する際に、定置済みの大型土のうの隙間に右足をはさんだ。
- 右足脛部の骨折と診断。

発生要因

(2) 玉外し作業員が吊荷近くで合図を送った。

- クレーンオペレーターが吊荷近くに作業員がいる状態で操作を行った。
- 双方とも、クレーンワイヤーが斜めになり荷振れしやすい状況になっていることに注意を払っていなかった。
- 合図に無線を使用していなかった。



事故発生時の状況(再現)

再発防止策

- (2) 合図者は吊荷付近で合図しないこと、クレーンオペレーターは吊荷の3m以内に人がいる場合には操作をしないこと、作業員の退避の完了を指差呼称で確認することを周知徹底する。
- 大型土のうの定置時には、合図者とオペレーターが、クレーンワイヤーの傾斜も確認することをルールとして周知徹底する。
- ラフタークレーンの使用時には、玉掛け者・オペレーター・玉外し者の三者が同時に通話できる無線機を使用して合図を行う。

作業場での事例（激突によるけが③）

事例の概要

(3) 激突による作業員のけが

2019年11月1日 12時30分頃 <西松JV>

- 南相馬市の仮置場で、クレーン機能付きバックホウにより遮へい土のうを10tダンプに積み込み作業中、土のうがダンプのあおりに引っかかったため、作業員が可搬式昇降設備に昇って状況確認を行い、バックホウのオペレーターに吊り上げの合図を出した。バックホウで土のうを吊り上げた際に荷振れして昇降設備に当たり、作業員は昇降設備とともに転倒した。
- 第一腰痛圧迫骨折と診断。

(4) 激突による作業員のけが

2019年12月17日 14時25分頃 <大林JV>

- 受入・分別施設内を歩行していた作業員が、クレーンアーム付きフォークリフトで吊り上げ運搬中の大型土のうに接触し、転倒した。
- 腰部及び左下腿の打撲傷と診断。

発生要因

- (3) 作業員が昇降設備を吊荷近くに設置し、昇降設備上でオペレーターに合図した。バックホウオペレーターは作業員が昇降設備から下りるのを確認せずに吊荷の土のうを動かした。
- (4) 作業員が工事用車両用シャッターゲートから入場し車両通行帯を歩行した。安全通路等の表示が不足していた。
 - フォークリフトオペレーターは進行方向が十分確認できない状態で運搬した。

再発防止策

- (3) 昇降設備上での合図禁止、昇降設備は吊荷から離れたダンプ後方部に設置すること、クレーン作業時の作業員・合図者の退域確認（吊荷から3m以内に人がいる場合はクレーン作業禁止）を作業ルールとして徹底する。
- (4) 工事用車両用シャッターゲートからの入退場と安全通路以外の歩行を禁止する。安全通路と車両通行部の分離を堅固なもので行い、表示を明確にする。
 - フォークリフトは、誘導者の合図で低速走行し、運搬時は後進走行することをルールとして徹底する。

作業場での事例（飛来、落下によるけが）

事例の概要

コンクリート蓋の足への落下による作業員のけが

2019年11月25日 15時0分頃 <大林組>

- 作業員がU型側溝のコンクリート蓋を運搬するため、材料置場から一輪車に載せようとした際、手元が滑り右足に落とした。
- 右足中指の骨折と診断。

発生要因

- 重量物の吊り上げに適した吊り具を使用せず人力で持ち上げようとした。
- 安全靴を履いていなかった。

再発防止策

- コンクリート製品の取扱について、重量、専用吊り具、吊り上げ方法等を作業開始前に周知する。
- 作業指揮者が随時確認を行い、状況の変化等に応じて作業手順書の見直しや具体化を行う。使用する道具等を明確化し全員に周知する。
- 服装点検時に、安全靴等の保護具の装備について具体的な指差呼称を行う。

作業場での事例（はさまれ、巻き込まれによるけが）

事例の概要

- (1) 輸送車両荷台のあおりへのはさまれによる運転手のけが 2019年9月28日 4時44分頃 <大林JV>
- 輸送車両の始業前点検で、ダンプアップして荷台の水抜きホース位置を修正した。その後荷台を下げる際に後方のあおり部分で手の甲をはさんだ。
 - 右第2、3、4中手骨の骨折と診断。
- (2) バックホウのフォークへのはさまれによる作業員のけが 2019年11月18日 15時15分頃 <戸田JV>
- 保管場整備工事において、除去した草木をバックホウで大型土のうに詰め込む作業中、大型土のうのたるみをとる作業を行うために、作業員が大型土のうの紐をバックホウのフォーク(爪)に引っ掛けようとしてフォーク内に右腕を入れたところ、バックホウオペレーターがフォークの引き上げ操作をして右腕をはさまれた。
 - 右前腕(橈骨、尺骨)骨幹部骨折と診断。

発生要因

- 荷台の動きを停止しないで作業をした。
- 作業員がバックホウのフォーク内に手を入れた。
 - バックホウオペレーターが自己判断でフォークを引き上げ、閉じる操作をした。
 - 被災者は通常は別の作業を担当していたが、本来の担当が別の作業をしていたため支援していた。

再発防止策

- 水抜きホースの位置固定は、荷台の動きを止めて行う。車両の後方に立ち入るのは、あおりの揺れ停止を確認した後とすることを作業手順書に明記し、周知する。
- 大型土のうのたるみ取りには、クレーン仕様の機械と外れ止めフック付きのワイヤーを使用する。バックホウフォークと人力の併用作業は禁止する。
 - 玉掛け作業中はバックホウの安全レバーを上げてロックを掛け、玉掛け者が重機作業半径内から安全な場所に退避した後、合図者の合図をもとにバックホウを始動する。
 - 人員配置と作業計画を明確にして周知する。

作業場での事例（重機等による物損）

事例の概要

- (1) 刈り払い機による引込み線損傷 2019年10月9日 11時30分頃 <西松JV>
• 灰処理生成物保管施設の準備工事で除草作業中に、家屋への電力引込み線を刈払機で切断した。

- (2) 重機(バックホウ)による架空線損傷 2019年11月18日 8時45分頃 <鹿島JV>
• 大熊町の輸送用道路の整備工事で、自走で移動中のバックホウ(0.45m³)のブームが架空線(NTT光ケーブルと電話回線)を切断した。

発生要因

- (1) 事前調査が不十分で、繁茂する雑草の中の引込み線の位置を確認していなかった。
• 足元と視界が不良であったため刈払機の位置を上げた。
- (2) バックホウオペレーター及び監視員が付近の駐車車両に気をとられ、架空線の存在を失念した。

再発防止策

- (1) 現場状況に合わせた作業前準備と現地KYの徹底。
• 刈払作業は刈刃を腰より低い位置にして行うことを作業手順書に明記し周知。
- (2) 重機横断箇所、架空線注意喚起用の架線を設置。
• 架空線近傍への駐車禁止措置。
• 危険予知活動時に、架空線箇所の周知と架空線に対するリスクアセスメントを実施。